

雪のデイキャンプ・チャレンジ隊

趣旨 我が国では甚大な被害をもたらした東日本大震災から今年で10年を迎える。現在も首都直下型地震をはじめ、洪水や猛吹雪等の大規模な災害の危険性が指摘される中、子どもたちには災害発生時に自らの命を守る力や被災後の心理的負担を自ら軽減する力、他者へ貢献する共助の心等、「防災力」を身に付けることが求められる。当施設では、こうした力や心の基礎となる自然に対する身体感覚やストレスへ対応する感覚が自然体験活動を通して培うことができると考えており、その効果を検証するため、本事業を実施する。

企画運営のポイント

○非指示的な関わり

遊ぶ場所、内容、約束、昼食準備の開始時間等をスタッフが決めるのではなく、子どもたちに考えさせる。

○丁寧な振り返り

見通しや判断が実際にはどのような結果になったのかを振り返る。

期日：令和3年2月27日（土）

会場：国立日高青少年自然の家

講師：鈴木 宏紀 氏（Nature Designing 自然考房 代表）

対象：小学校4年生～6年生

人数：7名

プログラム

10:00 10:20 11:00 13:00 14:30 15:00 16:00

開 会 式	雪 遊 び	た き 火	ク ッ キ ン グ	片 づ け	振 り 返 り
-------------	-------------	-------------	-----------------------	-------------	------------------



【成果】

- ・そりすべりのコースや雪のいすを作ったことについて、「自分で工作をしたみたいなのができて楽しかった」との感想があり、自分の考えを形にできたことへの満足感が感じられた。
- ・初めて会った仲間であっても、活動を進めるためには班全員の意見を出し合って決めていくことが必要だったため自然とコミュニケーションが深まっていった。

【課題】

- ・子どもの主体性を大事にして活動を進めさせたが、そのためにどこまで子どもに委ねることにするのかや支援の仕方について、スタッフが共通認識をもつことが一層大切であり、検討の必要がある。